

鳥取市議会建設水道委員会会議録

会議年月日	令和4年11月29日（火曜日）		
開 会	午前10時52分	閉 会	午前11時35分
場 所	市役所本庁舎7階 第1委員会室		
出席委員 (7名)	副委員長 勝田 鮮二 委 員 荻野 正己 太田 縁 前田 伸一 岡田 信俊 山田 延孝 吉田 博幸		
欠席委員	雲坂 衛		
委員外議員	なし		
事務局職員	参事兼調査係長 浅井 俊彦 議事係主事 田中 真一		
出席説明員	【都市整備部】 都市整備部長 岡 和弘 次長兼都市企画課長 牧野 隆史 交通政策課長 小森 毅彦 交通政策課課長補佐 筒井 真二 都市環境課長 徳田 剛 都市環境課課長補佐 藪下 昇 道 路 課 長 田村 温 道路課課長補佐 田中 和人 次長兼建築指導課長 太田 忠孝 建築住宅課長 森田 健 建築住宅課課長補佐 山崎 修		
傍 聴 者	1人		
会議に付した事件	別紙のとおり		

午前10時52分 開会

【都市整備部】

◆勝田鮮二副委員長 それでは、ただいまから、建設水道委員会を開催します。

本日ですが、委員長が不在のため、委員会条例第10条第1項の規定に基づき、私、副委員長の勝田が委員長の職務を行いますので、よろしくお願いいたします。

本日の日程は、お手元に配付のとおり、都市整備部の議案説明、質疑、討論、採決を行い、その後、報告を受けますので、よろしくお願いいたします。

それでは、岡都市整備部長に挨拶いただいた後、説明に入りたいと思います。よろしくお願いいたします。

○岡 和弘都市整備部長 都市整備部の岡でございます。本日は、補正案件として、コロナ交付金を活用した路線バス事業者への支援、また、9月の台風第14号により被災した市道の復旧事業などを計上しております。審議のほうよろしくお願いいたします。

また、報告事項としましては、9月議会の委員会で報告させていただきましたが、市営住宅の青谷城山団地におきまして、台風11号の強風により、物置の屋根が飛んで、車を破損した事故がありました。その事故について示談が成立しましたので、報告させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

- ◆**勝田鮮二副委員長** それでは、説明に入ります前に、この場の皆様に一言申し上げます。まず、発言を行う際には、執行部の皆さんは、発言前に必ず所属・氏名を述べてから発言ください。また、質疑及び説明、答弁は簡潔にいただき、十分審査していただきますよう、執行部及び委員の皆様をお願いします。

議案第139号令和4年度鳥取市一般会計補正予算のうち所管に属する部分（説明・質疑・討論・採決）

- ◆**勝田鮮二副委員長** それでは、議案第139号令和4年度鳥取市一般会計補正予算のうち、本委員会の所管に属する部分を説明ください。小森課長。

- 小森毅彦交通政策課長** 交通政策課の小森です。それでは、議案第139号令和4年度鳥取市一般会計補正予算（第8号）、都市整備部に属する部分につきまして御説明申し上げます。資料は、こちらの資料1、建設水道委員会説明資料で説明をさせていただきます。よろしいでしょうか。案件は、予算4件、繰越明許費1件でございます。1枚はぐっていただきまして、2ページを御覧ください。

上の表の補正額の欄を御覧いただきたいと思いますが、このたび計上しております都市整備部の補正予算は1億9,833万6,000円でございます。補正後の額は56億1,430万2,000円となります。詳細につきましては、所管課から順に説明をさせていただきます。

それでは、交通政策課から説明をさせていただきます。その下の表を御覧ください。総務費、総務管理費、交通対策費、地方バス路線維持対策費、路線バス運行継続緊急支援事業費（コロナ克服・新時代開拓臨時交付金）でございます。予算書は17ページ、事業別概要は17ページ上段でございます。

こちらは、路線バスの運行継続支援のためのバス事業者に対する補助金でございます。補正額は1億900万円でございます。3ページを御覧ください。路線バスにつきましては、コロナ禍となりましてから利用客が激減をいたしまして、さらには、燃料価格の高騰などの影響もあって、収益が大幅に減少をいたしまして、バス事業者は危機的な経営状況となっております。これまでも、令和2年度から3度にわたりまして、バス事業者への緊急支援金を交付しまして、路線の維持・存続に努めてきたところでございます。路線バスより比較的収益性の高い高速バス・貸切りバスにつきましては、全国旅行支援などの影響もございまして、利用の増加が見え始めておりますが、全国的に、またコロナの感染が拡大を見せるなど、先行きが不透明な状況となっております。さらには、燃料価格の高騰に加えまして、物価の上昇も相まって、路線バスへの内部補助は期待ができず、バス事業者の経営は、依然として厳しい状況でございます。

令和4年度の運行分、これは、昨年10月～今年9月までの運行分に当たりますが、こちらに

対する補助金額は、現在精査中でございますが、前年度を上回る3億6,500万円程度を見込んでおるところでございます。

令和5年度につきましては、引き続き、官民一体となった公共交通の利用促進の取組を実施していくこととしておりますが、補助金額は、3億8,500万円程度を見込んでおるところでございます。この補助金額の3分の1程度を、コロナ臨時交付金を活用いたしまして、緊急支援金を交付することで、市民生活を支える路線バス事業の維持・存続を図るとともに、財政負担の軽減を図るものでございます。補正額は、1億900万円のうち、9割に当たりますところに、コロナ臨時交付金を充当することといたしまして、これは、全庁一律の充当率となっております。説明は以上でございます。

◆勝田鮮二副委員長 徳田課長。

○徳田 剛都市環境課長 都市環境課、徳田でございます。引き続きまして、同じく資料1の4ページを御覧ください。都市環境課分の一般会計補正予算について御説明いたします。予算書は21ページ、事業別概要は17ページ下段です。

河川費、河川総務費、治水対策事業費でございます。補正額は104万円、うち特定財源といたしまして、全国市有物件災害共済金、いわゆる保険でございますが、こちらの104万円を充当し、計上させていただくものでございます。補正後の額は、1億101万1,000円でございます。

次に、資料1の5ページを御覧ください。事業内容でございますが、これは、治水対策事業費の洗井川排水機5号ポンプ場、ポンプ施設の修繕でございます。令和4年9月の落雷により、洗井川の排水機5号ポンプの充電設備、いわゆるユニット型の充電器でございますが、こちらが落雷により故障したことから、修繕費を104万円補正をお願いするものでございます。これは、今年8月31日の夕方から9月1日の朝にかけてまして、頻繁に落雷が発生し、特に、津ノ井方面で数回落雷が発生したもので、同日、運転委託を行っている鳥取市環境事業公社から、自家用発電機のエンジンがかからないと報告を受け、メーカーに確認させましたところ、充電設備のユニットに落雷の形跡があると御報告受け、故障原因が判明したものでございます。資料の中段の下のほうに、基盤の写真をつけております。一番下のほうに、赤で見にくい矢印があるかと思いますが、こちらに落雷でちょっと焼け焦げた形跡がある状況があったものでございます。昨年の8月にも、同様に落雷で充電器が故障し、修繕を行ったものですが、今年度の当初予算において、これを防ぐために避雷器、いわゆる瞬断ブレーカーといたしまして、雷が直接入り込まないように迂回をする機器をつける予定でございましたが、このコロナ禍によって、なかなかちょっと入荷が遅れまして、ちょっとこの8月に間に合わなかったということで、落雷の被害を生じたものでございます。ポンプの排水につきましては、現在外付けの簡易充電器を手配し、応急で迂回をして対応しているものでございます。なお、今後被害を受けないように、既に瞬断ブレーカーという材料が届いておりますので、こちらを既に現地のほうでは設置しておりますが、充電ユニットの交換をすることによって、修繕を早期に行い、対応したいと考えておりますので、今回補正を計上するものでございます。補正額は104万円でございます。以上でございます。

◆勝田鮮二副委員長 田村課長。

○田村 温道路課長 道路課、田村です。資料1の6ページを御覧ください。目公共土木災害復旧費、現年発生災害復旧費として、8,829万6,000円を計上させていただいております。そのうち補助災害復旧費といたしまして、8,556万6,000円を計上させていただいております。予算書は21ページ、事業別概要書は18ページ上段となります。及び、資料1の7ページを御覧ください。

これは、9月19日～20日の台風14号等に伴う豪雨で被災した道路3か所の災害復旧費で、市道山上津無線は、新たに発生した地滑りの災害で、残りの2か所については、以前災害の箇所が、豪雨により増破したものでございます。内訳ですけど、被災した箇所の工事費と測量試験費等になります。財源は国庫補助金、公共土木災害復旧事業債となります。

続きまして、単独災害復旧費として、273万円を計上させていただいております。予算書は同じく21ページ、事業別概要書は18ページの下段となります。資料1の8を御覧ください。

これは、同じく9月19日～20日の台風14号等に伴う豪雨で被災した道路6か所の復旧費でございます。内訳ですけど、被災した箇所の委託料で、倒木処理、土砂撤去となります。財源は、公共土木災害復旧事業債となります。

道路課補正額、合計8,829万6,000円、補正後の額19億959万5,000円です。

引き続きまして、繰越明許費を説明させていただきます。資料1の9ページ、予算書は27ページを御覧ください。公共土木災害復旧事業、補助災害復旧費、繰越予算額合計9,043万2,000円を計上しております。資料1の10ページを御覧ください。

市道山上津無線ほか1路線となります。繰越理由については、災害査定が11月にずれ込むなど、適正工期が確保できないため、繰越しを行うものでございます。

繰越明許費、道路課計9,043万2,000円となります。以上です。

◆勝田鮮二副委員長 説明を受けました。

これより、質疑を行います。質疑のある方は、順次御発言ください。山田委員。

◆山田延孝委員 路線バスの運行継続緊急支援事業費です。こうしてコロナ禍の中で、減収であったり、もちろんガソリン代、いわゆる燃料費がすごく高くなっておるといようなこともあります。こういった中で、1路線100万円ということでもありますけれども、この100万円の根拠といたしますか、考え方というのをお聞かせいただきたいと思っております。小森課長。

○小森毅彦交通政策課長 交通政策課の小森です。今回の緊急支援金ですけれども、コロナの影響によります利用者の減ですとか、燃料価格等の高騰による収益の減少に対して支援するものでございまして、コロナ前の令和元年度の補助額が2億6,100万円ございまして、その差額に当たります約1億3,000万円弱ですけれども、この1億3,000万円弱を、コロナと、それから燃料価格高騰の影響額とみなしまして、その補助金額の3分の1程度を支援金として交付することといたしまして、109系統ございまして、この109で割りますと、1系統当たり100万円ということで計算をしております。以上でございます。

◆勝田鮮二副委員長 山田委員。

◆山田延孝委員 路線によっては、その路線によって、いろいろあると思うんですけども、ばら

つきもね、一律にされたということですが、考え方として、決して間違いではないと思うんですが、やはり、事業者の、それなりの、何というか、路線バスの維持に大変気を遣ってもらっておるわけでありましてけれども、根本的に、今後ですね、恐らくこのコロナ後、非常にバスの利用者というのは、今後もうどんどん減ってくるということが予測されます。今後の課題として、こういった路線バスの維持のために、大きな金が必要になってくるのかなと思って、危惧しておるわけでありましてけれども、今日の提案は、私はそれはいいんですけども、今後ですね、事業者ともしっかりと話していただいでですね、市民の足の確保といいましょうか、そういったことも含めてね、ひとつ十分検討をしてほしいなあと考えておりますので、これは要望ですのでね、ひとつ今後を見据えた考え方というものを、鳥取市もしっかり持った上で、事業者と話し合っていたきたいなあと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

◆勝田鮮二副委員長 そのほかございますでしょうか。荻野委員。

◆荻野正己委員 路線バスの運行継続緊急支援事業費なんですけど、今回11月議会だということなんだけど、この議決終わり次第ということで、年内には支払いをされる予定ですか。

◆勝田鮮二副委員長 小森課長。

○小森毅彦交通政策課長 交通政策課の小森です。本日、予算の議決をいただきましたら、直ちに補助金交付要綱の改正に取りかかりまして、バス事業者と連携をさせていただきまして、速やかな交付に努めていきたいと考えておりまして、年内交付を目指したいというふうに考えております。以上でございます。

◆勝田鮮二副委員長 荻野委員。

◆荻野正己委員 別の質問なんですけど、17ページ下段の治水対策事業費についてなんですけど、過去にもあったということなんですけど、発電設備っちゃうの、何か所ぐらいあるんでしょうかね。

◆勝田鮮二副委員長 徳田課長。

○徳田 剛都市環境課長 今は、市のほうで、外置きの自家発が置いてありますのは、ここの洗井川と、それから、あと河原の三谷のポンプ場、この2か所に置いております。自家発をそのまま置いてあるっていうのは、その2か所を置いておるところでございます。以上でございます。

◆勝田鮮二副委員長 荻野委員。

◆荻野正己委員 瞬断ブレーカーですか、これは2か所とも今回準備されたのかなと思って。

◆勝田鮮二副委員長 徳田課長。

○徳田 剛都市環境課長 今回は洗井川のみでございます。

◆勝田鮮二副委員長 荻野委員。

◆荻野正己委員 当然、同じようなことっていうのは起こり得るんじゃないかなと思うんですけども、直接発電機に落雷っていうことではないですよ。多分、ほかからの電流があつてっていうことなんですけども、いずれにしても、そのブレーカーがあれば防げるということであればね、同じような、こういった状態を防ぐためにも、あと1か所、三谷ですか、そっちも必要ではないかなと考えるんですけど、いかがでしょうか。

◆勝田鮮二副委員長 徳田課長。

○徳田 剛都市環境課長 都市環境課、徳田です。河原のほうの三谷につきましては、幸い、その堤防の内側に、ちょっとくぼんだところに入れてるっていうのと、それから、上に高速道路と、それから県道の橋が架かっておりまして、上に遮断物が一応あるような状況なんですけども、ここの洗井川については、完全にもう野ざらしの上に、何も無い状況ですので、一番ちょっと被雷を受けやすい状況がありますので、今のところは洗井川のとこだけで整備をやってると。おっしゃるとおり、ゼロではないですので、河原のほうにつきましても、ちょっと検討はしたいと思っております。以上です。

◆勝田鮮二副委員長 前田委員。

◆前田伸一委員 今のその治水対策事業なんですけども、この野ざらしの発電機、これは、何ていうんですかね、市のほうで設置のほうはつけられたものなんですか。それとも、県のほうで設置されたものなのか、まず、ちょっとその点をお伺いしたいと思います。

◆勝田鮮二副委員長 徳田課長。

○徳田 剛都市環境課長 都市環境課、徳田です。洗井川の5号につきましては、鳥取市でつけてまして、ほかに、1号機～4号機については、もともと鳥取県が整備したものでございます。以上です。

◆勝田鮮二副委員長 前田委員。

◆前田伸一委員 1号機～4号機までは屋内型みたいになっとなつて、この5号機については、野ざらしといいますか、ということなんですけども、これは、通常だったら1号機～4号機と同じような形にすべきじゃないかなと思うんですけど、この雷の防止のためにもすべきじゃないかなと思うんですけども、あえてこういうふうにしたって、何か理由があるんですか。

◆勝田鮮二副委員長 徳田課長。

○徳田 剛都市環境課長 都市環境課、徳田です。県のほうの最近の整備におきましては、県事業での、いわゆる財源的な国庫補助で整備ができるっていうことで整備をされたものなんですけども、鳥取市のほうが、後からこの1台を追加するっていうことで、財源的に補助金がどうしても適用できませんでしたので、全天候型のものと、それから社屋、いわゆる屋内型で建物を建てるのと経済比較をして、今回、もともとこの外型、外置き型に、鳥取市としては整備したものでございます。はい、以上です。

◆勝田鮮二副委員長 前田委員。

◆前田伸一委員 分かりました。経済的な観点から、割安なこうしたものにしたんだということでしたけども、本来、県がするときには、この国庫補助があり、市のほうがするときには、国庫補助がないということなんですけども、何かちょっと、その辺が私は合点がいかないんですけども、もし国庫補助がついていたのであれば、県と同じような形の上屋がある、きちっとしたものに整備がなされて、いざというときにも、ストップしないようなものが可能だったんじゃないかなと思うんですけども、その辺、所見とかありましたら、お聞かせ願いたいと思います。

◆勝田鮮二副委員長 徳田課長。

○徳田 剛都市環境課長 前田委員おっしゃるとおり、有利財源があればってところもあるんです

けれども、やはり、県のほうが先に整備を行って建屋を建ててるんですけども、この5号機をつけるときに、配管路と、それから配置を考えたときに、どうしても建屋の増築がちょっと困難な、極小で狭い状況もありましたので、もし、この5号機を建てるとなると、別棟でもう一棟、新たに建てる状況がありましたので、なかなかちょっと厳しいのかなというところと、あと、もう1つは、やっぱりおっしゃるとおり、県は、やっぱり河川管理者っていうところの立場で、1級河川、2級河川保有してますと、国庫補助が適用できるっていうのが一番大きいんですが、市の場合は、やっぱり普通河川の管理っていう形になりますと、そこには補助金の適用がなかなかございませんので、幸い、この今の御時世ですので、コロナの対策金でありますとか、そういったものを活用しながら、使えるときは使える財源をっていう形で努力はしてるんですけども、本当は、市町村にも、そういう補助金があればなという思いはありますけど、なかなか国のほうが、国、県に対しては、管理者に対しては、補助金を充当できても、今のところ市町村にはなかなか出せないっていうところがありますので、いずれも国・県要望にも、何とかこういったものを補助金になるようにということで要望はしていますので、引き続き要望も続けてまいりたいと思っております。以上でございます。

◆**勝田鮮二副委員長** そのほかありますか。太田委員。

◆**太田 縁委員** 太田です。路線バス運行継続緊急支援事業費についてお伺いします。山田委員と重なる部分もあるんですけども、路線バスにこの補助金を出すことについて問題があるということではないんですけども、やはり公共交通機関というのは、ほかにも鉄道もありますし、ほかのものもある。ここのバスに特化していかれている、それぞれ、今まで補助金もありましたけれども、補正もありました。ただ、どうしても、こうバスに対するウエートが非常に大きいというふうに感じています。その中で、やはり、バス会社さんの実態把握であるとか、その現状ですね、それから、具体的にどのような対策ができるのか、あるいは、自己努力として、こういったことをなさっているかと。そういった現状については、どの程度把握しておられるのが1つ。

それから、先ほど山田委員が言われたように、今後の維持費がかかって、市民の足の確保が難しくなっていくと。こういった実態を踏まえて、今後どのような話合いというのを、市として行っていこうとしているのか、この2点をお伺いしたいと思います。

◆**勝田鮮二副委員長** 小森課長。

○**小森毅彦交通政策課長** 交通政策課の小森です。2点、御質問をいただきました。まず、現状の把握をどのようにしているのかということで、バス事業者をはじめ、交通事業者とは、定期的に意見交換会をさせていただいております。現状について、常に最新情報を把握するように努めておるところでございます。今回の緊急支援も、やはり、これまでも3度、緊急支援金を交付してまいりましたが、やはり利用客が戻らないということもございまして、それから、燃料価格も高止まりをしているという、厳しい状況であるということをお聞きしておりました。このたび国のほうも、世界的な原油価格の高騰ですとかということがございまして、経済対策を打ち出したということで、市としても、これに呼応して、緊急支援金を交付しようということで、このたび計上させていただいてるものでございます。

それから、今後どのようにしていこうとしているのかということですが、特にこの路線バスにつきましては、利用者の有無にかかわらず、定時定路線で運行しているということがございまして、利用者の減少に伴って、赤字額というのが年々増加をしてきているというような状況がございます。運転手の人手不足ということも深刻になっておりまして、今のその状態を継続していくということは、非常に難しい状況となっております。ですので、市としましても、この状況をいつまでも続けるというのはよろしくないというふうに考えておりまして、バス事業者との定期的な意見交換の中で、やはり、地域の移動ニーズですとか、輸送量に即したまちづくりと連動した交通体系っていうのを再編していく必要があるのではないかとということ、今検討しているところでございます。例えば、利用者の多い通勤・通学時間は、大型の車両を走らせて、地域内の身近なところでは、予約型のドア・ツー・ドアの乗合交通ですとか、あるいは、人流の多い市街地の路線、それから、地域と地域を結ぶ広域的な路線、こういったところについては、大型の車両で、定時定路線の運行をしていくというような効率的な運行、それから、利便性の向上を実現しながら、財政負担も減らしていきたいと。そういった新たな交通体系への再編というのを、事業者と一緒に、今検討をしているところでございます。以上でございます。

◆勝田鮮二副委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 ありがとうございます。定期的っておっしゃるんですけど、それは大体どれぐらいの、1か月に1度とか、具体的にお示してください。

◆勝田鮮二副委員長 小森課長。

○小森毅彦交通政策課長 交通政策課の小森です。特に時期を決めてるわけではありませんけども、ほぼ月1でさせていただいております。以上でございます。

◆勝田鮮二副委員長 太田委員。

◆太田 縁委員 先ほども少し申し上げましたけど、やっぱり鉄道とですね、上手にその同じ路線を平行に走っていくのではなくて、やはり鉄道と競合しないようにというか、そういったことも検討をしていただきたい。例えば、鉄道に対して補助金っていうのは、なかなかふさわしくないように思われがちですけども、例えば、1本増やそうと思えば、鉄道のほうもお金、経費がかかる。じゃあ、それも見合わせながら両方を考えていかないと、バスだけで話をしても、いつまでたってもこう、今までと同じことをしても、結局はこの財政負担が大きいんだと。最終的には、市のほうから、いや国のほうからということだけれども、これを続けてやっていっても解決はしない。だから、この辺りを、バス会社さんとともに解決方法を模索というか、もちろん利用者の現状もあるんですけど、そういったことを考えながら、もう少し踏み込んでいかないと、お金がいつまでも続けばいいんですけども、これが続かないと、市民の足は担保できない。この辺りをもう少し念頭に置いていただいて、しっかり協議をしていただきたいですし、早急に、もう少しこう、月1っておっしゃってるんですけども、それも話し合いも、現状把握をしっかりしながら進めていくっていうような、やはり速度が必要じゃないかというふうに考えますが、どうでしょうか。

◆勝田鮮二副委員長 小森課長。

○小森毅彦交通政策課長 交通政策課の小森です。太田委員おっしゃるように、これまではその交通事業者ごとに、ダイヤを定めて、運賃を定めて、それぞれで営業をしているというような状況がございました。人口減少、それから沿線人口の減少、コロナの影響、そういったものもございまして、公共交通全体のその利用者が減ってきているという中で、減便が進んでいるというような状況で、ますます公共交通が利用しづらい環境になっているという状況がございまして。こういったことを踏まえまして、現在実施してるんですけども、若桜線の若桜鉄道、それから因美線、それから日本交通の若桜線、こちらは、共通パスで乗っていただけるというような実証実験も、今行ってるところでございます。ようやくそういう、いろんなその交通手段を組み合わせることによって、総動員をして、利用者目線での利用しやすい環境というのをつくっていかうというふうに考えておるところでございまして。これも、定期的に事業者と打合せをさせていただいております、そういう公共交通を利用しやすい環境の拡大に、今は努めているところでございます。以上でございます。

◆勝田鮮二副委員長 そのほかありますか。前田委員。

◆前田伸一委員 資料1の10ページの市道山上津無線の繰越額、これが7,280万円、測量試験費等っていうふうになってるんですけども、これは、測量試験費だけで7,280万円ということですか。この内訳を伺いたいと思うんですけども。

◆勝田鮮二副委員長 田村課長。

○田村 温道路課長 道路課、田村です。内訳ですけど、山上津無線の測量試験費が5,200万で、あと、応急対策費というので、もしちょっと調べて、水がかなり出て、地滑りを起こしてるんだしたら、大至急水を抜かないといけないという応急復旧費が2,000万と、あと、それぞれ消耗品等が残りとなっております。

◆勝田鮮二副委員長 前田委員。

◆前田伸一委員 この測量試験費で、5,200万円ですと。その測量、測量っていいですか、調査っていいですか、調査をしていく段階で、仮に状況が、水の状況とかが悪いつていうような状況であったときに、この工事費として、応急の2,000万円を使っていくと。今の段階では、その2,000万円っていうのは大ざっぱな、何ていうんですかね、頭出しっていいですか、そうした考え方でいいんでしょうかね。

◆勝田鮮二副委員長 田村課長。

○田村 温道路課長 道路課、田村です。議員さん、言われるとおりですね、まず、これから、縦のボーリングとあって、水位とか地滑り、ここ地滑りということで、一応、国のほうに、地滑りらしいというところまで判断をいただいております、今後調査をしていきます。12月に入って、すぐにこの予算が通ったら、ボーリング、縦のほうにボーリングと水位観測、あと、ひずみ計を設置して、そのひずみ量が、伸縮計と、降雨とか雪の状態で、動きが激しいなという、1回当たり2ミリ以上動くっていうふうになれば、かなり危険な状態ということになるので、大至急、水を抜かないといけないということで、応急工事費ということで、今、2,000万円の横ボーリング、これ、広岡とですね、八葉寺、昨年度繰越しに上げさせていただいてますけど、応急工事をすぐ、繰越し後に出ささせていただいたということもありますので、その辺はボーリ

ング結果を見ながら、速やかに対応していきたいと考えておまして、2,000万のほうは計上させていただきます。以上です。

◆勝田鮮二副委員長 前田委員。

◆前田伸一委員 この標準断面図に、包括地滑りっていうふうに、赤い点線で書いてあるんですけども、これについても、想定っていいですか、その現状で、こういった包括地滑りが見受けられるっていいですか、推定されるという、ほぼ確定ということによろしいんでしょうかね。

◆勝田鮮二副委員長 田村課長。

○田村 温道路課長 道路課、田村です。今現在、確定してるのは、南側地滑り滑落崖って、上の市道までに、くるっと回ってる地滑り、こちらのほうは、ほぼ確定してます。包括地滑りのほうは、実際調査をしないと分かんないということで、下のほうもちょっとボーリングを全部入れていきますので、そちらを見ながら、安定しているか、地滑りが下のほうまでずっと行っているのかを調査をさせていただくっていう予算も入っておりますので、それを確認の上、動いたら、今度、下のほうから抜かないといけない。動きが上だけだったら、上のほうだけを抜くというようなことになりますので、その辺を調査のほうで確認していきたいというふうに考えています。

◆勝田鮮二副委員長 前田委員。

◆前田伸一委員 分かりました。この測量試験費、調査・設計が終われば、工事のほうにかかっていくとは思いますが、どうなんでしょう、こうした、例えば、この包括地滑りみたいな大きな滑りになってくるっていうことになると、この市道の市道敷っていうのは、舗装の部分だけですよね。例えば、この市道の下側のほうだとか、上側のほうだとか、こうしたところは、用地買収みたいなことになってくるんですか。

◆勝田鮮二副委員長 田村課長。

○田村 温道路課長 道路課、田村です。市道の下側は鳥取市の用地なので、下側のほうは、問題はないと思うんですけど、上側のほうは、実際山林となっております、こちらのほうは、寄附のほうをいただいて、木のほうはちょっと補償せんといけんと思うんですけど、立派な杉の木が生えてますので、木のほうは補償しないといけないんですけど、土地のほうは、実際本来だったら、土地の持ち主が崩れないようにしないといけないっていうのを、市のほうで行うということで、寄附のほうをお願いしに行きたいというふうに考えてます。

◆勝田鮮二副委員長 前田委員。

◆前田伸一委員 じゃあ、その寄附のほうのめどっていいですか、何ていうんですか、ついで上で、この予算を上げていっちゃるっていうことなのか、いやいや、寄附せんでっていうようなことだと、予算はついたけど、ストップみたいなことになってしまうと思うんですけども、この辺はどうなってるんですか。

◆勝田鮮二副委員長 田村課長。

○田村 温道路課長 道路課、田村です。実際、市のほうが工事をできない場合は、個人さんが市に被害を与えているということで、逆に、ほかのところについても、実際、管を入れるところについては、地下権だけを設定させていただいて、用地買収まではしません。管抜きの水抜

きについては、実際、用地買収するのは、構造物を造るだけなので、実際、そんな面積をするわけではないので、実際、地権者のほうは、おおむね、自分げですごいお金を払うよりは、協力していただけるというふうを考えております。

◆前田伸一委員 はい。分かりました。

◆勝田鮮二副委員長 そのほかありますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二副委員長 それでは、以上で質疑を終結します。

それでは、討論に入ります。討論はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二副委員長 討論なしということで、以上で討論を終結します。

これより、議案第139号令和4年度鳥取市一般会計補正予算のうち、本委員会の所管に属する部分を採決します。本案に賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

◆勝田鮮二副委員長 挙手全員と認め、本案は原案のとおり可決されました。

報告第19号専決処分事項の報告について（説明・質疑）

◆勝田鮮二副委員長 次に、報告第19号専決処分事項の報告についてを説明ください。森田課長。

○森田 健建築住宅課長 建築住宅課、森田です。報告第19号関係、専決処分事項の報告について説明いたします。資料1の11ページ、付議案は9～10ページです。資料1を使って説明いたします。資料1の11ページを御覧ください。

9月16日に開催された9月市議会定例会建設水道委員会、その他報告で説明いたしました、市営住宅青谷城山団地で起きた賠償事故について、令和4年10月27日に専決処分を行ったので報告するものです。

損害賠償及び和解の相手方は、鳥取市内に在住する者です。事故の状況ですが、令和4年9月6日午前6時頃、青谷町亀尻324番地の1にある、市営住宅青谷城山団地53-1棟の外物置の屋根の一部が、台風第11号の強風により飛ばされ、隣接地に駐車していた相手方車両の運転席ドアに当たり、損傷させたものです。

損害賠償の額は、車両修繕費に係る費用で、2万4,600円です。和解の内容は、鳥取市側の過失割合を10割とし、鳥取市は、相手方に対し2万4,600円を、令和4年11月末日限りに相手方に支払い、相手方は、その余の請求を放棄するものです。なお、相手方との示談は、10月27日に完了し、賠償金の支払いも11月18日に完了しています。説明は以上です。

◆勝田鮮二副委員長 説明を受けました。

委員の皆様から質疑等ございましたら、順次発言ください。

（「なし」と呼ぶ者あり）

◆勝田鮮二副委員長 なしということでございます。

以上で、建設水道委員会を終了します。

午前 11 時 35 分 閉会

令和4年第4回鳥取市議会臨時会 建設水道委員会

令和4年11月29日（火）福祉保健委員会終了後

本庁舎7階 第1委員会室

都市整備部

1. 議案(説明・質疑・討論・採決)

議案第139号 令和4年度鳥取市一般会計補正予算（第8号）

2. 報告

報告第19号 専決処分事項の報告について